

I-15.ロシア・東欧諸国・バルト三国の教育・科学技術の主要機関、 制度等の状況調査

Survey on major institutions and systems of education, science and technology in
Russia, Eastern European countries, and the Baltic States

 キーワード Key Word	ロシア・東欧諸国・バルト三国、教育・科学技術主要機関、教育・科学技術制度
	Russia, Eastern European Countries, Baltic States, Major Institutions of Education, Science and Technology, Education, Science and Technology Systems

1 調査の目的

本調査では、国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）において、

- ① 直接招へいプログラムにおける招へい計画の策定
- ② 一般公募プログラムにおける交流計画申請の審査
- ③ さくらサイエンスクラブ（SSC）同窓会活動

を行うための基礎資料として、各国・地域の教育・科学技術分野の状況に係る客観的、定量的なデータを収集し、整理した。

上記①から③の実施にとまない、以下の活動が予定されているところ、本調査は、そのための基礎資料を調査・整理することを業務内容とするものである。

さくらサイエンスプログラムの活動予定

<ul style="list-style-type: none"> ・ 各国・地域より科学技術関係者を直接招へいする際の、招へいする政府機関、高等教育機関（大学等）、研究開発機関等の候補の選定 ・ 一般公募プログラムの採択案件の審査における、送出し機関（特に送出し機関が優秀な青少年を擁する機関であること）の適切さの判断 ・ 優れた青少年が所属する教育機関の把握 ・ SSC 同窓会の開催にあたり、中核的支援が期待できる機関候補の選定
--

2 調査研究成果概要

既に公開されている情報・データベース等については、公的な機関及びそれに準ずる機関、あるいは極めて信頼性の高い組織からの発信を源とする文献調査を主軸としつつ、情報の正確性を担保するため、不明な点等について各国政府・大使館、有識者等に補完的に聴き取り調査を実施した。データが公表されていない事項、あるいは詳細について不明な重要事項等については、聴き取り調査を主軸として進めた。総じて、いずれか一方の調査に拠るのではなく、相互補完的に調査を進めた。

調査期間は2021年11月～2022年2月までであり、ウェブ情報を含む各種情報はこの期間に取得した。なお、調査にあたっては一部にWeb of Scienceの論文データベースを基にしたクラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社から提供されたデータを用いている。

本調査は、ウクライナ、エストニア、クロアチア、スロバキア、チェコ、ハンガリー、ベラルーシ、ポーランド、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ロシアの12カ国を対象とした。

調査項目は多岐にわたるが、主として①当該国・地域の基本指標、②初等・中等・高等教育に関

わる制度・状況、③科学技術・研究開発に関わる制度・状況の点につき網羅的な調査を行なった。

業務の実施にあたり、上記の各国・地域の教育、科学技術全般の状況に加え、特に「日本との継続的な交流が期待できる機関、人材」の把握に焦点を当て、有為な人材を擁する現地教育機関の把握に努めた。現在、海外の大学についてはある程度の客観性を備えた国際ランキングが存在し、我が国においてもそれらは半ば公知のものとなりつつあるが、海外の高等学校についてはいまだ客観的かつ妥当な学校ランキングが我が国の政策立案者に認知されているとは言い難い。公開情報の精査及び大使館員等の外国政府関係者、有識者へのヒアリングを通じ、説得力のある各国のエリート高校のリストを作成できたことは、本調査における特筆すべき成果である。